

ラテックスアレルギー対策の現状と統一に向けた取り組み

樋口千春 小森美弥子 河村智子 後藤順子

要旨: ラテックスアレルギーとは天然ゴムによる即時型のアレルギーである。医療機関で発生した場合は、医療事故として扱われる可能性もあると言われている。¹⁾ラテックスアレルギーに対する具体的な対策は各病院に委ねられており、A手術室の対策としてラテックスアレルギー患者やハイリスクグループの患者に対し、ラテックスセーフな環境を整え対応してきた。しかし、他のスタッフから指摘され対応を行うなど、スタッフの認識に違いがあり対応が統一されていなかった。そこで、統一した対策が取れる事を目的にスタッフの認識と現状を明らかにし、判断基準の設定とスタッフ教育を行った。

【はじめに】

ラテックスアレルギー（以下LAと略す）とは天然ゴムによる即時型アレルギーであり、医療現場において増加している問題の一つである。LAに対する具体的な対策・方針の決定は各病院に委ねられており、²⁾近年LAに対する研究や取り組みが多くされている。A手術室においてもLA対策として、LA患者・ハイリスクグループ患者に対し、ラテックスセーフな環境を整え対応している。

しかし、LAの患者情報は術前日や術当日に判明することがほとんどであり、そのため急な器材準備や環境調整が必要となった。また、チェックリストやマニュアルなどもあったが、十分活用されておらず、準備する看護師の知識によって左右されていた。また、ハイリスクグループに対しては基準が設定されておらず、看護スタッフは戸惑いながら準備することが多くあった。

そこで、安全なLA対策を行う為に①LA対策の現状とスタッフの認識度を調査②判断基準の見直しとマニュアルの改訂③スタッフ教育を実施し、LA対策の統一を図ることが出来たのでここに報告する。

【研究対象】

手術室・中央材料室看護師19名

【研究期間】

平成26年6月～平成27年5月

【研究方法】

- ①手術室・中央材料室看護師へLAに対する認識度調査を実施
- ②調査結果を基に、判断基準を設定・マニュアルとチェックリストの改訂・物品の整備・勉強会を開催
- ③勉強会後のLAに対する認識度調査を実施

【倫理的配慮】

- ①看護部倫理検討会の承認を得、スタッフに研究の趣旨及び倫理的配慮を文章及び口頭で説明し質問紙の回答をもって同意を得た。
- ②基準設定において手術室運営委員会の承認を得た。

【用語の定義】

ラテックスセーフな環境：使用物品のすべて室内・室外において可能な限りラテックスを排除し、室内クリーンルーム扱いとした環境

【結果】

LAの認識は全てのスタッフにあった(図1)。

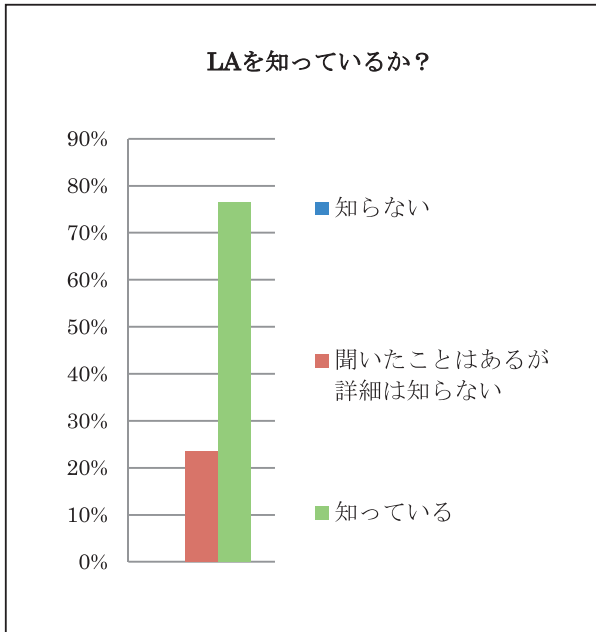


図 1

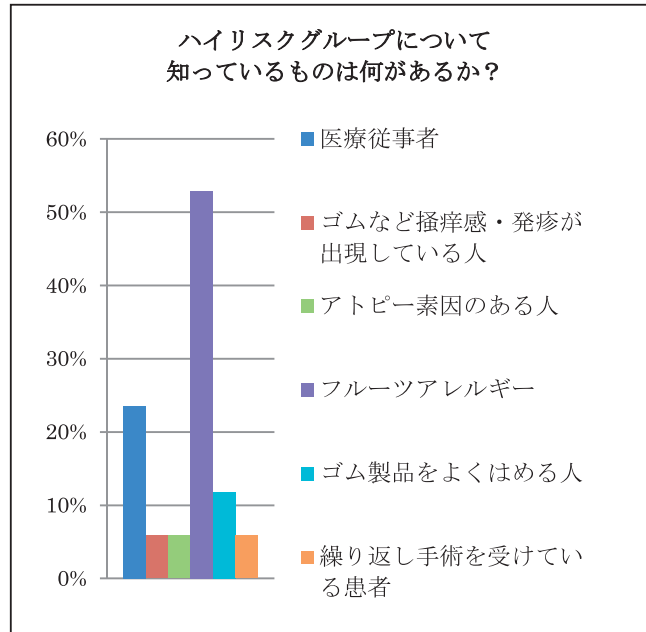


図 3

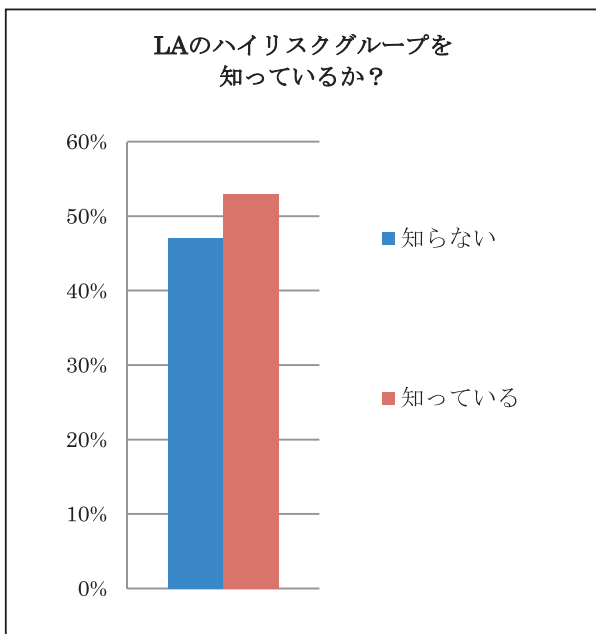


図 2

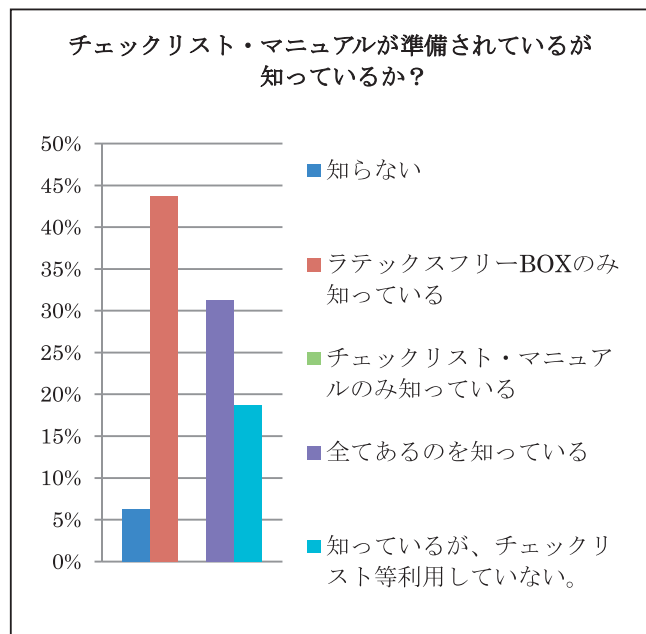


図 4

しかし、ハイリスクグループについては53%のスタッフにしか認識はなく（図2）ラテックスフルーツ症候群は知られていたが、医療従事者24%・アトピー素因のある人・繰り返し手術を受けている人などは6%とほとんど知られていない結果となった（図3）。

チェックリストやマニュアルは「ラテックスフリーBOXのみ知っている」「知っているが

利用していない」との回答があり、利用されていない現状が明らかとなった（図4）。

83%のスタッフがラテックスセーフな環境を整える際、不安を感じており（図5）「どこまで対策をとるのか分からない」「ラテックスセーフな環境を整える手順が分からない」「どの患者を対象にするのか分からない」（図6）などの意見が挙げられた。

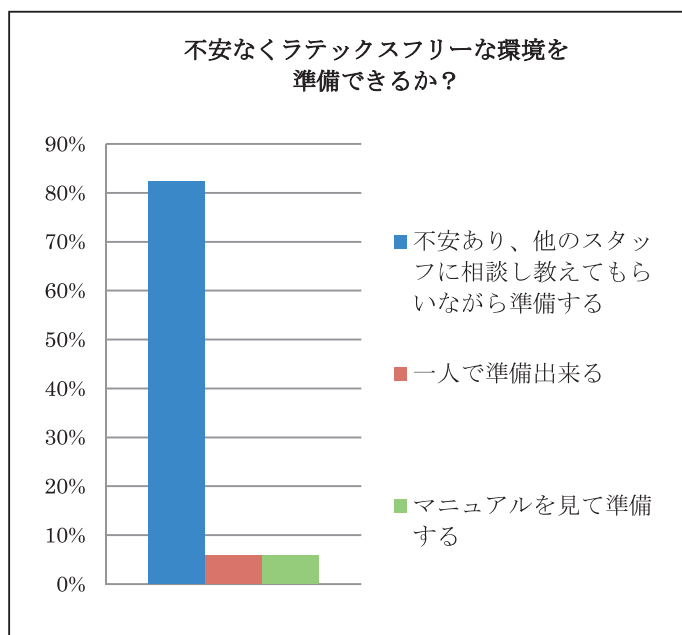


図 5

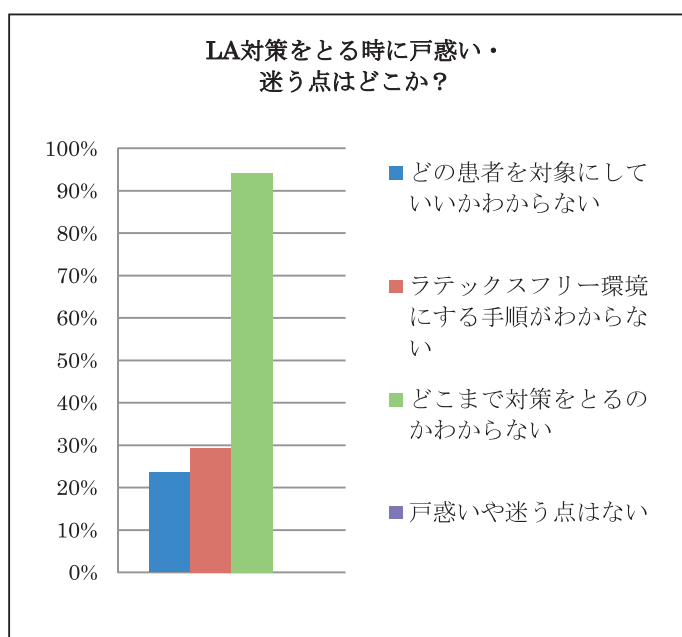


図 6

そこで、麻酔科指導のもとLAの判断基準を設定した。LA患者及び天然ゴム接触で皮膚症状を呈する患者に対してはラテックスフリー環境を整え対応を講じることとした。ハイリスクグループの患者の対応は、ラテックスフリー環境作りは行わず、溶出する蛋白量が少ないパウダーフリー手袋を術野で使用することとした。¹⁾

そして、どの患者においてもアナフィラキシ

ーショックなどの緊急事態を念頭に置き、リスクに対する意識を持つよう伝えた。

次にマニュアル・チェックリストの改訂とラテックスフリー物品の整備を行った。マニュアルの改訂は、一枚のマニュアルからラテックスアレルギー対応とハイリスクグループ対応に分け、ラテックスフリー環境作りのチェックリスト・ラテックスフリー使用物品チェックリスト・中材洗浄依頼チェックリストを入れた1つのファイルを作成した(図8)。ラテックスフリー物品は1つのBoxに乱雑に保管してあったが、使用物品ごとに分けた移動式の4段カートに変更した(図9)。

LA対策の判断基準の設定とマニュアルの改訂について、LA・ハイリスクグループについて、手術看護認定看護師と共に勉強会を開催し、勉強会後のアンケートを実施した。「ハイリスクグループはラテックスフリー症候群だけではない事を知った」との感想が多くあり(図10)、全てのスタッフが、「マニュアルを参考に準備出来る」「対象者がはっきりし、迷いなく準備出来る」と回答した(図11)。また、勉強会後においては準備時間が短縮し、スタッフ間でアレルギー情報共有をする、器械展開時にはラテックス製品の有無を確認するなどの意識変化が見られた。

【考 察】

LA・ハイリスクグループに対し認識度が低い事や、ハイリスクグループの対策をどこまでやるか、対象患者の判断基準が不明確であったことがラテックスフリーな環境を作る際、不安を感じる要因であったと考える。LA・ハイリスクグループの勉強会の開催、判断基準を設けたことやマニュアルとチェックリストの整備・使用方法の説明を行ったことにより、スタッフにLAに対する意識変化が見られるようになった。これは統一されたLA対策が取れるようになったと考える。

しかし、対策変更後のLA対象者が少なく、

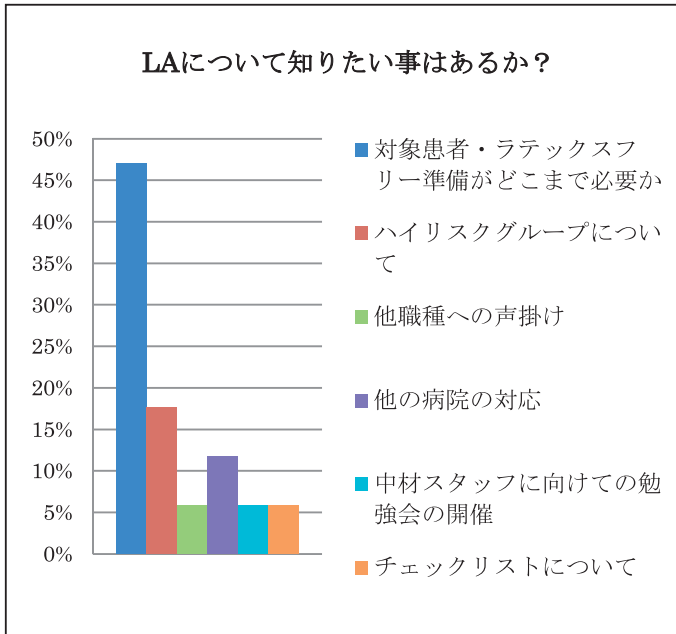


図 7

再評価が行えていないので今後行っていく必要がある。また、勤務異動看護師・新人看護師への勉強会も必須項目として挙げていく必要があると考える。

全ての患者に対し、ラテックスセーフな環境を整える事が望ましいが、コスト面などの問題もありハイリスクグループに対してはパウダフリー手袋の使用とした。アナフィラキシーショックを起こすリスクがあるという認識を持ちアナフィラキシーショックに対応出来る指導を行っていかねばならない。A手術室ではアナフィラキシーショックに対するパニックカードの使用やシミュレーションの有効性について研究発表されている。³⁾勉強会後のアンケート

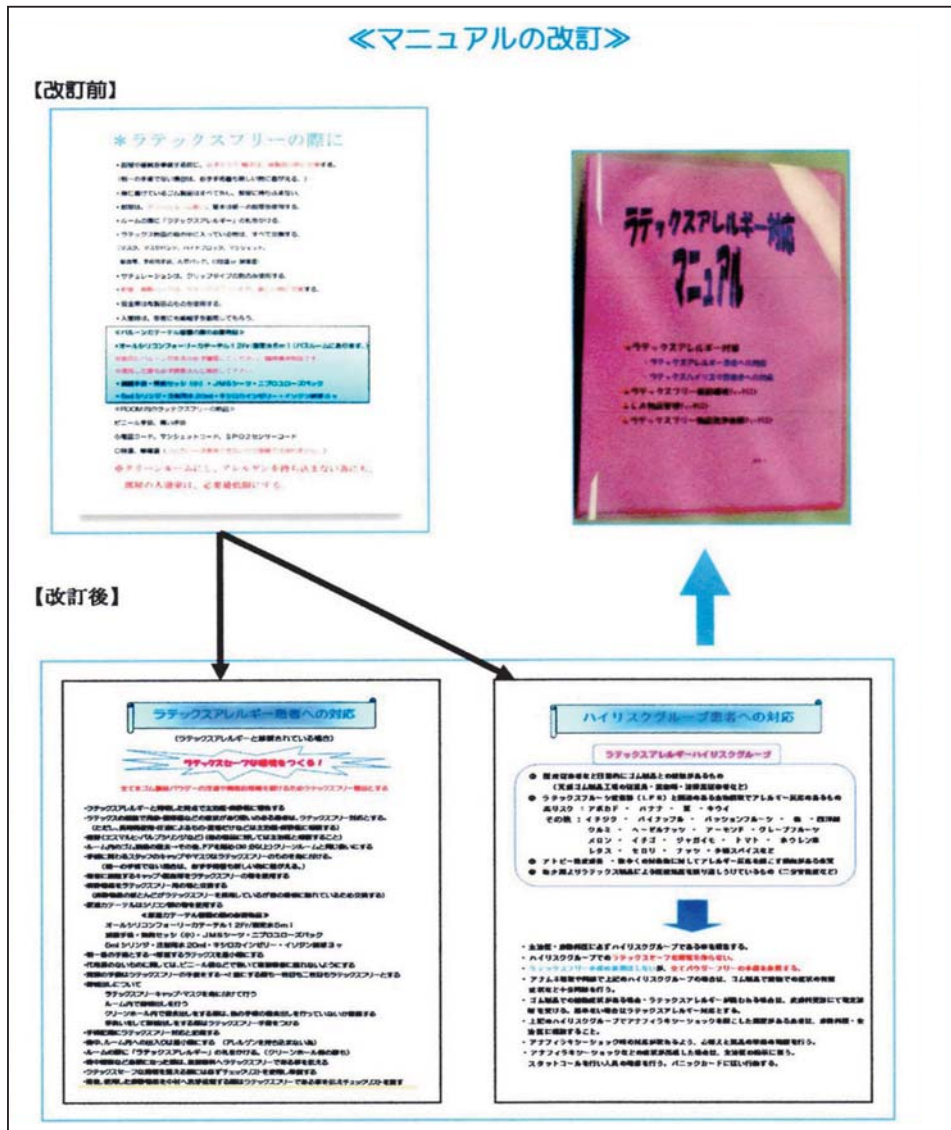


図 8

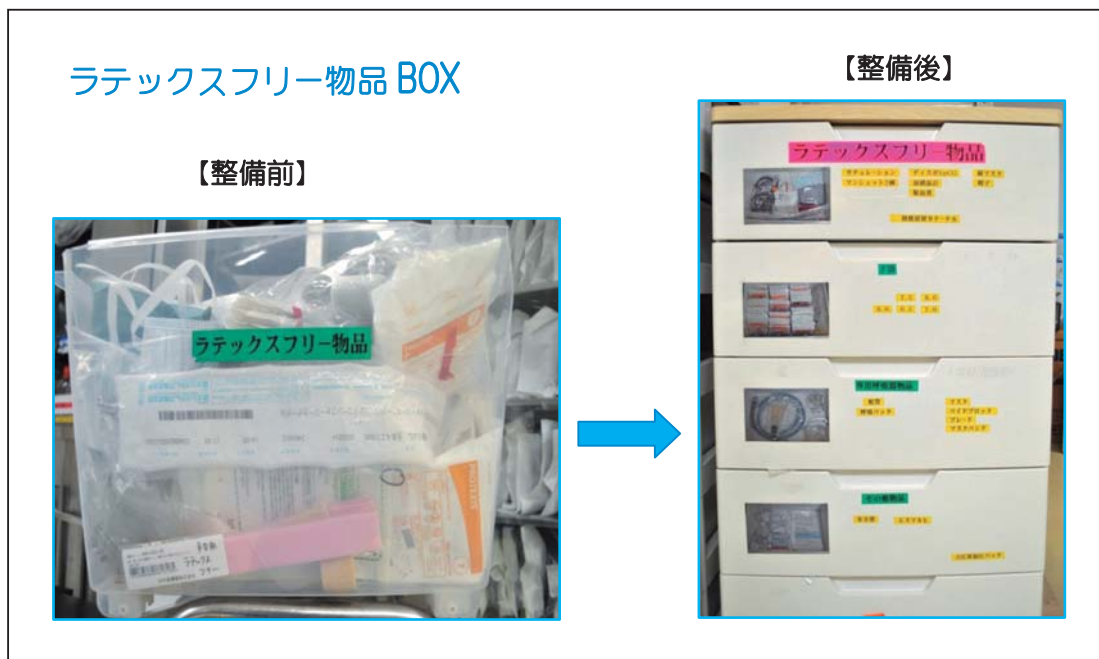


図9

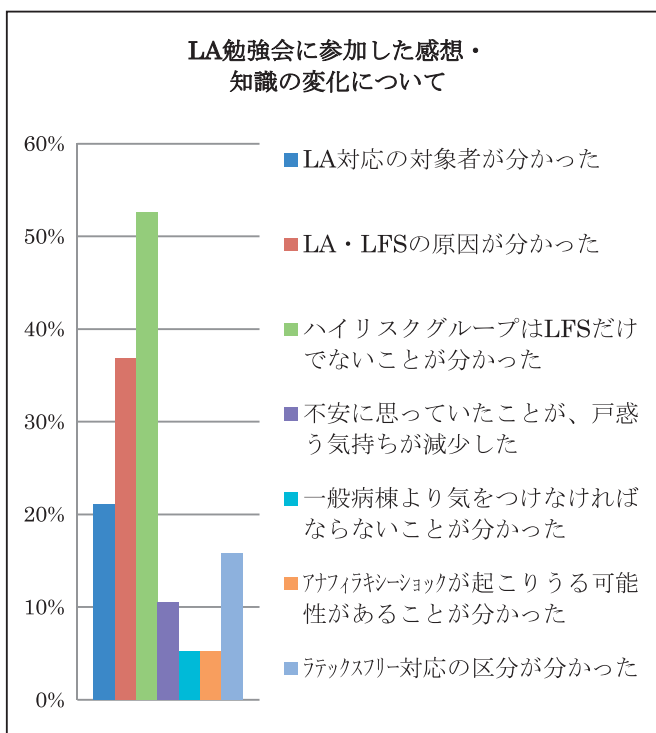


図10

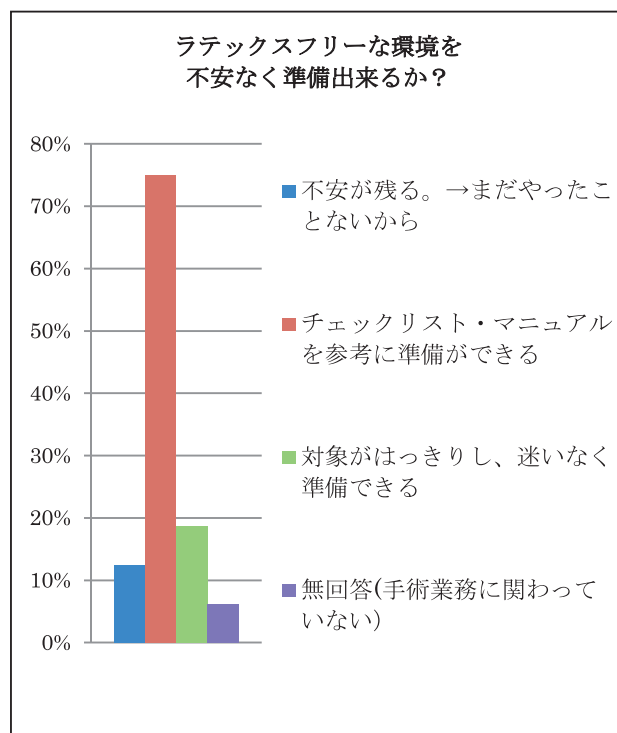


図11

から「アナフィラキシーショック時の初期動作が出来るか不安」という声が聴かれ、万が一の時に備え、シミュレーションを定期的に行う必要があると考える。

また、早期のLAに対する問診が必要である。しかし、緊急手術の場合は術前訪問が実施出来ず、LAに対する情報収集が出来ないこともあり、

外来・病棟看護師のLAに対する認識を深め連携を行うことが重要であると考えます。

【結 語】

LA・ハイリスクグループの判断基準を設け、勉強会を開催したことは統一されたLA対策に繋がった。

今後、アナフィラキシーショック時対応のシミュレーションを定期的で開催すること。外来・病棟看護師と連携を図り、LAに対する早期の確認と情報の共有が出来るようなシステムを構築することが課題である。

【おわりに】

LA対策は、準備する看護師の知識によって左右することなく、全てのスタッフが統一された知識を持ち対策を講じなければならない。手術室の取り組みだけでなく、外来・病棟看護師のLAに対する認識を深め連携を行うことが重要であり患者と医療者双方にとって安全な環境作りを行っていききたい。

引用・参考文献

- 1) 日本ラテックスアレルギー研究会 ラテックスアレルギー安全対策ガイドライン作成委員会：ラテックスアレルギー安全対策ガイドライン2013, 協和企画, 東京, 2013
- 2) 猪又直子：ラテックスアレルギー対策の考え方と実際. メディア視覚教材+実践手術看護 3(1)：110-116, 2009
- 3) 兼松慎吾, 原田達恵, 小森美弥子ほか：手術室における緊急時対応に対するパニックカードの作成 - その作成の経緯と有用性 -. 岐阜赤十字病院医学雑誌 26(1)：67-70, 2015
- 4) 長井香織：ラテックスアレルギー対策の現状と今後の取り組み. 実践安全手術看護 5(4)：42-46, 2011
- 5) 中村加奈, 島田朋子, 後藤隆久：手術部におけるラテックスアレルギー対策の報告. 日本ラテックスアレルギー研究会会誌 17(1)：35-39, 2013
- 6) 水野樹, 花岡一雄：麻酔危機管理 手術室におけるラテックスアレルギー. Anesthesia 21 Century 12(1)：1-36, 2010
- 7) Medsafe.Net (医療安全推進者ネットワーク), ラテックスアレルギーの予防, <http://www.medsafe.net/specialist/64latex.html> [accessed 2015年10月]
- 8) 白木敬子, 小島あずさ, 根本康子：院手術部におけるラテックスアレルギー対策. 日本ラテックスアレルギー研究会会誌 15(1)：89-93, 2011
- 9) 倉橋順子, 川崎弥寿子, 岩井益美：ラテックスセーフな環境作りへの取り組みと今後の課題～手術室看

護師の立場から～. 日本ラテックスアレルギー研究会誌 8(1)：32-36, 2004